



第 16 回 文京区医師会学術集会 抄録

平成 30 年 2 月 24 日 (土)

於 文京区医師会館 1 F ホール

第 I 部 座長： 清家 正弘 (医師会) 新井 悟 (薬剤師会)

1. 「文京区医師会における胃内視鏡検診実施までの流れと現在の状況」

本郷内科クリニック 山崎 瑞樹 大橋内科クリニック 大橋 誠

平成 29 年 6 月より新たに胃がん検診に内視鏡検診が加わった。それまでは 40 歳以上の区民に対して年一回バリウムにて行われていたが、平成 27 年に対策型検診としての有効性が示され文京区より内視鏡検診導入の打診があった。そこで小石川医師会と共同で医師会員と導入について検討を行い、文京区とも導入に際しての諸条件について交渉を行った。平成 29 年 6 月 15 日から平成 30 年 1 月 31 日までで胃がん検診総受診数は昨年を大幅に上回った。

2. 「BPSD のある在宅高齢者への支援について

—順天堂アウトリーチ事業との連携・MCS の効果的活用の側面から—

トチギ介護サービス 内尾 正美 高齢者あんしん相談センター駒込 川村 牧子
駒込かせだクリニック 加勢田 美恵子

80 歳女性、H23 くも膜下出血発症後右片麻痺と失語症あり、H24 より在宅療養開始、要介護 5、認知症状はなく、種々サービス利用し安定していた。同居家族は夫と長女一家と次女一家、隣に長男、別所帯の次女の妻が主介護者であった。H29 春頃より意識消失発作を数回起こし、脳血管障害後のてんかんとしてイーケプラを服用、その前後から BPSD と思われる暴言・暴力・介護拒否・異食・幻覚等が出始めた。向精神薬等調整したが症状改善見られなかったため、順天堂アウトリーチ事業利用。精神科医、精神保健福祉士、臨床心理士、長女による事前事後カンファレンスと訪問を行った。その後主治医による投薬内容の変更やそれに伴う症状観察等、各介護施設や多職種間で MCS を利用して密に情報共有を行ったので報告する。

3. 「ブラウンバック運動と在宅医療服薬支援事業の結果報告」

カイエイ薬局 鈴木 礼 スエヤス調剤薬局 島田 淳史

東京都保健医療計画の中で東京都医師会並びに東京都薬剤師会に委託されている表題の事業において、平成 29 年度は文京区がモデル地区となった。これからの薬局に求められる在宅の分野において、薬剤師はまだまだ多職種と連携が取れているとは言えない中で本事業がスタートした。今回の事業を通し多職種の方と実際に関わらせて頂いた中で、得られた成果や今後の薬剤師の課題について報告する。

ブラウンバック運動とは、患者が日常的に服用している処方せん薬、OTC 薬、サプリメント等を薬局に持参してもらい、副作用や相互作用などの相談や残薬確認を行うプログラムである。高齢化社会における残薬問題は深刻であり、残薬解消により医療費削減及びアドヒアランス向上、さらには安全な医療の提供に繋がるため、文京区薬剤師会では残薬の現状確認と有効活用による医療費削減の取り組みを目的としたブラウンバック運動を行った。

4. 「アンチ・ドーピングと薬剤師」

白山駅前薬局 川田 真二郎

【目的】ドーピング、アンチ・ドーピングに薬剤師がどのように関わっているか、また関わっていくか。

【方法】適切な情報提供の仕組みやホットラインの構築、スポーツファーマシスト制度の設立

【結果】競技者のコンディショニング向上だけでなく、ジュニア世代からのドーピング防止教育につながる。

【考察】 2020 東京オリンピック・パラリンピックの成功のためだけでなく、未来にわたりアスリートのサポートとして身近に関わっていく。

信じよう、スポーツを、自分を。 つなげよう、世界へ、未来へ。

第Ⅱ部

座長： 阿部 智子（訪問看護ステーション） 太田 修司（歯科医師会）

5. 「癌末期における CADD ポンプの疼痛緩和」

訪問看護ステーションきょうわ 上田 由美子、網代 里恵子

経口摂取不可能の利用者における疼痛緩和として、パッチ薬、座薬以外に選択できる方法として、CADD ポンプを使用し、CV-P の側管から（モルフィネ、リスペリドン、オキファストなど）を入れる方法がある。疼痛を押さえられる量を常時流し、疼痛の強い時にはボタンを押す事で必要量が流れ疼痛緩和が期待できる。

今回、二人の末期癌利用者に CADD ポンプを使用し疼痛緩和の支援を行ったので報告する。CADD ポンプによる疼痛緩和は、本人、家族にも、ボタンを押す簡単な操作でできる反面、ルートが複雑な事や、尿の管、胃瘻の排液の管などがたくさんあることは家族の負担となり、看護師の管理も大変であった。しかし、家族は痛みを緩和しながら最期の時まで意思疎通ができることを望んでいたため、丁寧に医師と連携を取りながら CADD ポンプのモルヒネを細やかに調節していくことで、家族の思いに近づくことができた。

6. 「多職種連携の必要性を感じた認知症の方への関わりの一例」

日本財団在宅看護センター本郷 直江 あやこ

認知症に限らず慢性疾患や障がいのある在宅療養サービスのご利用者・家族に対する支援は、医療的ケアの範疇にとどまらず、社会的ケアを多分に含むため医師や薬剤師、看護師だけで支援は成り立たない。

認知症は、その疾患の進行とともに症状やケアのニーズが大きく変化するとともに、他の疾患を合併していることも多いため、ご本人・ご家族と係わる様々な職種が必要な情報を共有し、適切な役割分担のもと生活全体を支えていくことが重要であり、他職種の専門性や地域の介護保険サービスを知ることも連携の1歩と考える。

医師・看護師と介護職の協働、さらに作業療法士が加わりその人らしい生活支援へ向けた連携構築の必要性を感じた事例からを紹介させていただき、今後も地域の中で顔の見える関係を深めていきたい。

7. 「オピオイド投与中に尿閉を生じたターミナル事例からの学び」

訪問看護ステーションけせら 石川 喜美子

1. 事例紹介： Y氏 70歳 男性 親戚が経営する飲食店に勤務していた。パート勤務の妻と30代の長男との3人暮らし（長女は結婚し別居）家族関係は良好。
2. 現病歴： 60代で悪性胸膜中皮腫と診断されN大に化学療法目的で通院。
H29年9月呼吸困難、咳嗽、食欲低下あり。MS コンチン使用していたが改善せず。
H29年10月緩和目的でN大入院。モルヒネ持続静注、酸素 3L/分にて症状安定。
そのままE病院緩和病棟へ入院予定だったが本人の希望により一時自宅へ退院した。
3. 状態の経過：退院後、訪問看護介入。
オピオイドの副作用による便秘に関しては下剤と浣腸、呼吸苦に関してはオプソ内服と在宅酸素投与（カヌラ 2L/分）。
11月初旬 排便コントロール困難にて下剤増量。
11月中旬 呼吸苦増強し酸素 3.5L/分に増量。
経口摂取プリン1個、バナナ1本、飲むゼリー100ml/日。
11月16日より訪問看護、連日訪問 せん妄状態、徐々に経口摂取が減る。
11月20日19時より排尿がない20時50分尿管カテ挿入し1000ml貯留あり。

今回のケースではオピオイドの副作用において、主な代表的症状に囚われず、目の前の患者の訴えや、いつもと違うという細かい異常に気づく事の大切さを改めて患者から学んだ事例であった。また、複数名の看護師が関わったチームにおける連携の大切さを再確認した。

8. 「治療を助ける口腔機能管理 —医科歯科連携について—」

本郷こしきや歯科 古敷谷 昇

歯周病は世界で最も多くの方が罹患している疾患であり、近年様々な全身疾患と関連が深いことが解明されつつあります。一方、重症化しなければ自覚症状に乏しく、無治療であることが多い疾患でもあります。

歯周病を始めとした歯科疾患は、他の病気の治療中には様々な副作用、合併症の原因となり得ますが、口腔ケア、歯科治療によって予防、軽減出来ることもわかってきています。

口腔ケアとは、口腔の疾病予防、健康保持・増進、リハビリにより QOL の向上をめざした科学であり技術であると、日本口腔ケア学会においては定義されています。具体的には、検診、口腔清掃、歯科治療、義歯の着脱と手入れ、咀嚼・摂食・嚥下のリハビリ、食事の介護、口臭の除去、口腔乾燥予防等があります。

今回は、BMA の使用に関連する顎骨壊死、骨髄抑制時の歯科治療の考え方、抗血栓療法患者の対応等を中心に医科歯科連携の実際についてご提案いたします。

9. 「学術集會を核に広がる異業種の輪」

中島矯正歯科クリニック 中島 榮一郎 谷根千歯科 野村 豪彦
ナースステーション東京 名畑目 明美 ナースステーション東京 鍵屋 民地
カイエイ薬局 鈴木 礼 スエヤス調剤薬局文京店 島田 淳史

近年、急速な高齢化が進む中、高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活できる仕組みである地域包括ケアシステムの構築は重要な課題となっている。そのため、医療、介護に携わる他職種が綿密な連携体制をとり、適切な医療サービスを提供することが必要とされている。今回発足した「医療サービス向上勉強会」は他職種が連携体制を整えるため、まず各職種の特徴、最新の話題や問題点などを提供し、相互理解を深め、お互いに顔が見える関係構築を目標とした。第一回目は薬剤師の立場から残薬問題を中心に、簡易懸濁法の紹介、剤型の違い、服薬時の工夫などについて発表した。第二回目は訪問看護師による症例報告、IT 企業関係者における服薬支援ツールの検討について議論した。今後の課題として、さらに多くの職種と連携を図り、円滑な情報共有による連携の強化が必要である。

平成 30 年 2 月 24 日 文京区医師会 学術集會 抄録

主催：文京区医師会

共催：文京区歯科医師会・文京区薬剤師会・訪問看護ステーション連絡会